(C)河北新報社

水紋

特別な景色

母校が悲願の日本一に輝いた。25日に東京・明治神宮球場であった明治神宮野球大会決勝で仙台大（東北）は７－１で大商大（関西１）を下し、東北勢で初の頂点に立った。母校の仙台大のために、現地で写真撮影を手伝い、その歴史的な瞬間を見届けた。

何より胸を打たれたのは森本吉謙（よしかた）監督の涙だった。「言葉にならない。学生たちが一戦一戦成長してくれた。感謝と誇りに思う気持ちでいっぱい」と優勝をかみしめた。日本一という結果の陰には、日々の積み重ねや、思うようにいかない時間もあったはずだ。

河北新報出向中は大学野球を担当し、選手たちの姿を追ってきた。多くの試合を取材してきたからこそ、勝利の瞬間だけでは見えない道のりを想像した。試合の勝敗を伝え、選手や監督の言葉を記事にする。これまでは一歩引いた立場で試合を見つめていた。

記者として大学野球に携わってきた自分と卒業生として母校を応援する気持ち。二つが重なった今回の経験は、改めてスポーツを伝えることの意味を考える機会になった。後輩たちが切り開いた新たな歴史。これからも現場で人の思いや物語を伝えていきたい。　（納代真奈）